

総合論文

メコン その農と食

黒田 俊郎
(応用植物科学コース)

Mekong — Sight of Agriculture and Food —

Toshiro Kuroda
(Course of Applied Plant Science)

The author has had the opportunity to be engaged in field work in the Mekong River basin for forty years. In this report, the variety of agriculture and food of the Mekong River basin are described, based on that experience. The Mekong River is the biggest river in Southeast Asia. The source of the Mekong River is Tibet. The river flows through Chinese Yunnan, through Myanmar, Laos, Thailand, and Cambodia, forming a delta in Vietnam where it comes out into the sea. There live many people in that basin, and various agricultural elements of cultural complexity are found. Food culture also varies throughout this area. The author divided the whole basin into seven agriculture zones. The key words indicating the various forms of agriculture and food cultures recognized in the Mekong River basin are listed, illustrated by photographs. It has been said that Chinese ancient civilization was started from the Yellow River civilization. The Chang Jiang civilization now comes to the fore, which started before the Yellow River civilization. It is just now being admitted that the Chang Jiang civilization is equal to the four big civilizations of the world. It is just now being recognized that the Chang Jiang civilization is on a par with the four big civilization of the world. According to the author's supposition, not only Chang Jiang but also Mekong, Thanlwin and Huang river constituted a Asian Big civilization. The author predicts whether a time will come when the existence of a "Asian Big River civilization" will come to be explained.

Key words : Asian Big River civilization, Chang Jiang civilization, Chinese ancient civilization, Mekong, Southeast Asia

はじめに

メコン川は東南アジア最大の川である。その流域には多くの人が住み、稲作と漁撈を主として多彩な農業と食文化が展開している。

筆者はメコン流域で40年にわたって農村調査・稲作調査・村作りへの協力あるいは生物多様性に関する教育活動などでフィールドワークに従事する機会を得た。

ここでは、それらの経験を基にメコン流域の農業と食文化の多様性について述べ、フィールド調査で撮影した写真で現地の状況を紹介したい。

メコン流域の農業地帯区分

メコン川は最上流部はチベットにその源を發し、中国雲南を経て、ミャンマー・ラオス・タイを流れ、カンボジアを経てベトナムでデルタを形成して海に出る (Table 1)。上流から下流に至る4千数百kmの流域面積

Table 1 Characteristics of Mekong

Basin population (Million) : 56			
	China	4	Myanmar 0.6
	Lao PDR	4	Thailand 21
	Cambodia	7	Vietnam 19
Climate	:	Tropical monsoon (rainy season and dry season)	
Size	:	The biggest river in Southeast Asia	
Length	:	4600km (Catchment area : 0.8 million km ²)	

は80数万km²に達する。当然ながら流域の環境条件には大きな変異が認められ、そこに展開する人びとの生活も極めて多様である。特に生物学的条件、農業、食料の状況はまさに多様性を帯びている。そこでまずこの全流域の農業地帯区分を行い、Table 2とFig. 1に示した。

気候条件からみると、比較的冷涼な上流部から熱帯の

Received October 20, 2010

Table 2 The agricultural zone classification of Mekong basin

1. Extreme upper reaches	— Tibetan sheep zone
2. Upper reaches	— Rice/Barley/Horse zone
3. Middle reaches, mountainous	— Upland rice/Water buffalo zone
4. Middle reaches, left bank hilly	— Rice/Water buffalo zone
5. Middle reaches, right bank plains	— Rice/Water buffalo zone
6. Lower reaches, right bank big basin	— Rice/Water buffalo zone
7. Delta	— Rice/Water buffalo zone

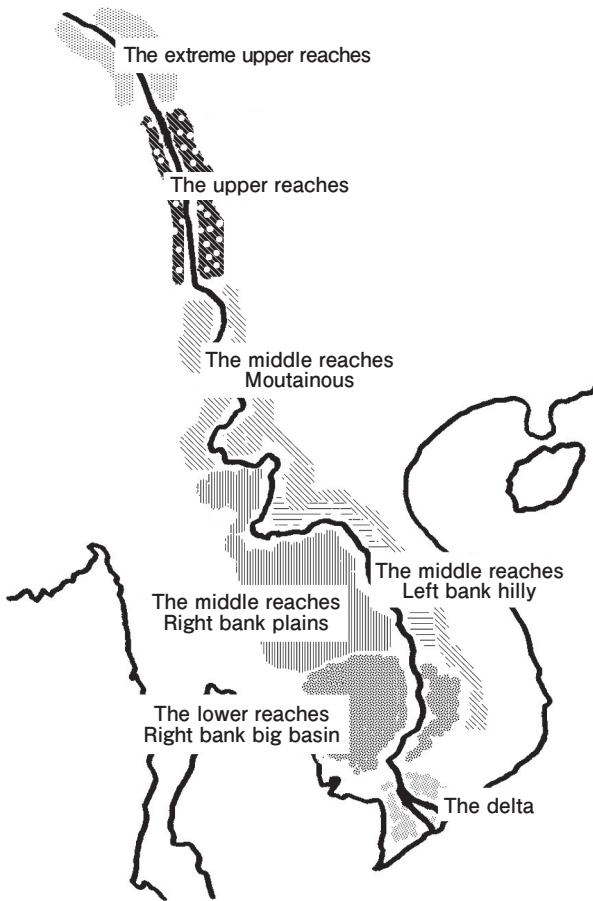


Fig. 1 The agricultural zone classification of Mekong River basin

下流部まで変異は大きいですが、最も多く、それも大半を占めるのはおおむね亜熱帯・熱帯モンスーン気候であるといつてよい。農業を特徴づける主要な作物・家畜としては、水稲・陸稲・オオムギ・馬・水牛を挙げることができる。特徴的な作物・家畜と大河川としての自然地理的特徴がこれら農業地帯を区分していると思われる。

メコン流域における農と食の多様性

メコン流域を特徴づける最も重要な要素はイネと魚である。イネで特徴的なことはメコン流域には広大なモチ米地帯が存在することで、魚はもちろん淡水魚である。大小の河川はもとより、トンレサップ湖のような大きな湖からタイ・ラオス語でノーンと呼ばれる小さな沼地まで漁場である。この沼は多くは水田の塊の中心にある窪地である。そして、水田でさえ漁撈の重要な場である。

魚の他、鶏・豚・牛などタンパク質を供給してくれる動物達も、もちろん多彩である。水牛や象のような巨大家畜からネズミのような小動物まで「有用動物」である。さらには昆虫食・生肉食品も豊かな彩りを添える。

野菜はもちろん、藻類・果実・イモ・タケノコ・キノコなど植物性の食べ物は豊かな温熱と水によってきわめて多彩である。

また、発酵食品が重要な位置を占めることも忘れてはならない特徴である。ナレズシ・塩辛・魚醤・納豆・漬ものなどで、タケノコや茶でさえ発酵食品に加工される。発酵は食品の加工法であるにとどまらず、暑い地方における巧みな貯蔵法でもある。

サトウキビなどの砂糖、地下資源を利用した製塩、麻薬のケシなど嗜好料などもこの地域のキーワードである。

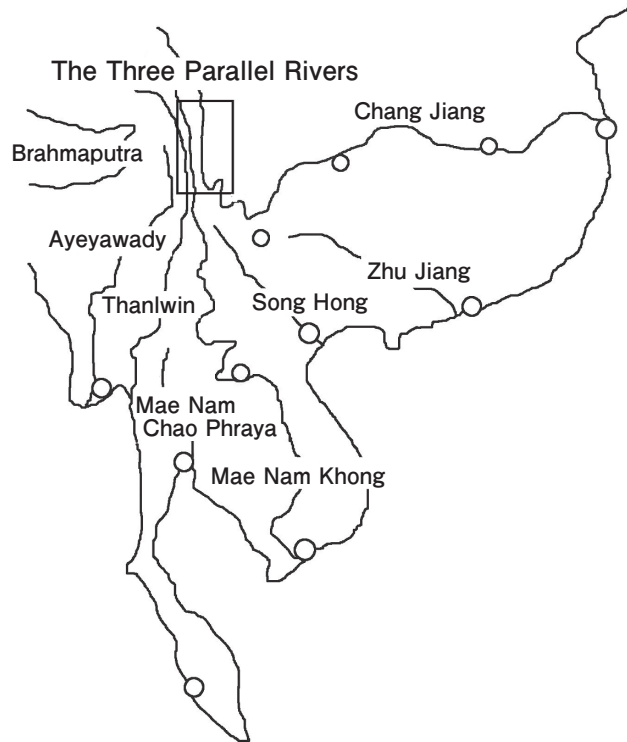


Fig. 2 The three parallel rivers and their courses

Table 3 Various foods of Mekong basin

1. Rice	(1) Glutinous rice (2) Non-glutinous rice
2. Fish	(1) "White Fish" Carp, Catfish (2) "Black fish" Loach
3. Meat	(1) Chicken (2) Pig (3) Cow
4. Draft, pet, food animal	(1) Water buffalo (2) Horse (3) Dog (4) Elephant (5) Sheep and Goat
5. Various foods	(1) Vegetables (2) Algae - rice field alga, fresh water green alga (3) Fruit-banana, papaya salad (4) Potato (5) Bamboo shoot (6) Mushroom (7) Insect food (8) Wild birds (9) Wild beasts (10) Accompanying animals (Rat, Silkworm chrysalis)
6. Raw meat "Raap"	Fresh meat is carved delicately, and flavored in the incense grass and spices. (Cow, Water buffalo, Chicken, Duck, Pig)
7. Fermented food	(1) Fermented liquor (2) Distilled liquor (<i>Shao xing jiu</i> "Chinese rice wine") (3) Fermented fish (4) Salted fermented fish (5) Fish sauce (6) Natto (7) Pickles (8) Bamboo shoot (9) Fermented tea Fermented salted tea leaf
8. Gel food	(1) Tofu (2) "Konjak (Devil's Tongue)"
9. Sugar	(1) Sugarcane (2) Palmyra palm
10. Salt	(1) Crystalline salt (2) Underground salty water
11. Fabric	(1) Silk (2) Cotton (3) Kapok
12. Forest resources	(1) Trees (Tree greens, Lumber, Aromatic, Plastic, Host-tree) (2) "Lac" Lac insect (Scale insect)
13. Palm resources	(1) Coconut palm (food material, oil raw material) (2) Rattan (food material, canework)
14. Narcotics	(1) Poppy (2) Betel, Betel nut palm

Table 4 The Three Parallel Rivers

Jin Sha Jiang (金沙江)	The upper reaches of Chang Jiang
Lan Chan Jiang (瀾滄江)	The upper reaches of Mekong River
Nu Jiang (怒江)	The upper reaches of Thanlwin river

メコンの地理的位置

三江並流

三江並流は世界遺産（自然遺産）に登録されている自然景観である（Table 3, Fig. 2）。

ヒマラヤ造山運動によって4つの山脈が並行して走り（横断山脈）、3本の川が並行して流れるという独特な自然景観が形成された。三江とは、いずれもチベット高原に源を發する、金沙江（長江の上流）、瀾滄江（メコンの上流）、怒江（タンルウィン川の上流）という3本の大河を指す。これら3本の川は、雲南省に入って山間を南流

し170 km余り並行して流れ、世界でもまれに見る「川が合流せず、並行して流れる」という自然地理景観が形成された。メコンと長江上流部が最も接近するところではその間隔が70 kmで、メコンとタンルウィン川上流部の最短間隔は20 kmとされる。

この地帯では多くの山岳民族が暮らし、生物学的にもまさに多様性の空間である。また歴史的には漢民族の影響を受けているとはいえ、古い歴史と文化をそれぞれに有する多元的文化の融合地帯である。

「東南アジア大河川文明」

世界の文明の4大文明はエジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・黄河文明と言われる。また最近では黄河文明に長江（揚子江）文明も加えられ中国文明と呼ばれるようになってきた。現在では長江文明の中心地は長江下流域に比定されているが、上流部すなわち金沙江との関連についてはこれからの課題のようである。

筆者は今後歴史的証拠が明らかになればメコン・タンルウィンを加え、すなわち「三江」が形作る文明と呼ばれる可能性もあると推測している。上述のよう

にメコンは三江並流のひとつをなし、さまざまな文明の接点となりうる地勢的位置を占める。さらに視野を広げて想像をたくましくすれば、「東南アジア大河川文明」とよばれてもよい広大な文明の証拠が明らかにされるかもしれない。少なくともインダス文明さらにはメソポタミア文明やエジプト文明との交流の通路であった可能性はあろう。河川は文明を隔てるものではなく、重要な交易の経路であったはずである。現在まで引き継がれている「茶馬古道」はもうひとつのシルクロードともよばれ、通商の歴史は紀元前にまでさかのぼるといふ。またメコンの中流右岸、カンボジアにはアンコールワットの巨大な遺跡もみることができる。いずれも古来から文明の交流が栄えた証左であろう。

日本の地理的位置

さて「東南アジア大河川文明」と日本とを年代的に比較してみると、長江文明は数千年ないしは1万数千年をさかのぼることができる可能性があるといわれる。まさにこの新石器時代ともいえる時代は日本では縄文時代草創期である。

また地理的位置関係でみると、日本は中国からみて東の果て、東南アジアからみて北の果てであり、受け入れた文明のターミナルであったことは間違いない。

縄文文化の出自はおくとしても、縄文文化の基礎の上にアジア・中国から伝播した農と食にかかわるたくさんの文化的要素が積み重なり、今日の「日本の農耕文化」、「日本の食文化」の基層が形成されたことは確かであろう。

いっぽう、メコン流域は他の大河川と併せて東南アジアを中心にしたひとつの文明圏を形成してきたと考えた。作物をはじめ文化的要素が東南アジアに起源するものが多いというわけではない。むしろ各地で起源し発展した文化的要素が東南アジア大河川を経路として集約されたことも多かったのではあるまいか。川と海の違いはある。しかし「三江」はじめアジアの大河川は「海」に

匹敵する大きさである。海も川も食料の宝庫であり、またヒトとモノの交流を支える大動脈である。

日本へ渡来した数々の文化的要素の経路が日本海と太平洋の海に依存していたように、東南アジアでは長江・メコン・タンルウィンなど大河川に依存した文化的要素の集積があったと考えるべきであろう。

東南アジアの農と食の文化は多彩であり、日本にあるものはほとんどすべて東南アジアにみることができる。しかし、そのことをもって日本における文化的要素の起源を東南アジアに求めるのはもちろん間違いである。むしろそれらの類似性に注目しつつ両者の成立過程を総合的に理解することが重要である。

本論のテーマに即して言えば東南アジアの農と食を理解しつつ、また「日本の食文化」を語るということであろう。メコン流域に住む人びとの農と食を見つめることは、実は日本の農業と食文化の源流を探り、日本の農業と食料のこれからを考える出発点でもあると、メコン流域における農と食の多様性みて、思わざるをえない。実際、メコンの支流（本流ではない）のトンレサップ湖は雨期には琵琶湖の10倍の面積に達し、瀬戸「内海」なみの面積である。またメコンの大きな魚はある種のサメや鯨（シャチ）なみの大きさを誇る。魚介類（もちろん魚だけでなく貝やエビ・カニやほ乳類、藻類も含めて）の豊富さは海に負けない。塩でさえメコンには、ある。「東南アジア大河川文明」における農と食という大きな視野から、日本の農と食を見つめなおすことも、今、必要ではあるまいか。

謝 辞

本研究は当初からメコンそのものに焦点を当てようとしたものではなかった。いくつかのフィールドワークが、「たまたま」メコン流域を対象としていたことが出発点である。タイ・ラオスを始め東南アジアや中国などで現地調査をすることができた。これらフィールドワークへの参加にお力添えを賜ったすべての方々と、調査や写真撮影に快く協力して頂いた現地の方々に心から感謝します。



Fig. 3 Three kinds of glutinous rice grain (1971, Laos)



Fig. 4 Floating rice (1981, Thailand)



Fig. 5 Upland rice (1998, Laos)



Fig. 6 Barley field (2008, Yunnan)



Fig. 7 Steamed glutinous rice (1981, Thailand)



Fig. 8 Dried fish (2007, Thonle saap)



Fig. 9 *Plaa deck*-Fermented fish-(1988, Laos)



Fig. 10 Puddling with water buffalo, and simultaneous fishing (1988, Thailand)



Fig. 11 Tibetan horse (2005, Yunnan)



Fig. 12 Dog meat (2008, Yunnan)



Fig. 13 Elephant (1983, Thailand)



Fig. 14 Pig (1983, Thailand)



Fig. 15 Rat (1981, Thailand)



Fig. 16 Fermented tea leaf (1981, Thailand)



Fig. 17 Worms cultured by bamboo (2004, Thailand)



Fig. 18 Taro leaf (2008, Yunnan)



Fig. 19 Jack fruit (2007, Laos)



Fig. 20 Hut in field (1983, Thailand)



Fig. 21 Coconut palm (1981, Thailand)



Fig. 22 Burning cultivation (2001, Laos)



Fig. 23 Sugarcane (1983, Thailand)



Fig. 24 Salt from underground water (2004, Laos)



Fig. 25 Fresh water laver (2003, Laos)



Fig. 26 Plantain (2003, Laos)



Fig. 27 "Nattou" (fermented beans) (1998, Laos)